



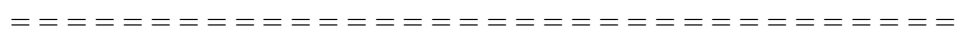
地域日本語支援ニュース こだま 第 377 号

2020.3.12.



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■ともに生きる：いわき市から■

福島県いわき市では、市国際交流協会の多文化共生相談員が、市内在住外国人への各種支援活動を行っています。同市では近年ベトナム人が急増しており、それに対応するために、令和元年7月からベトナム語に対応できる相談員が配置されました。同相談員の星チャンさんに、15年前に来日してからの日本語習得の経験、今後への思いを書いていただきました。

.....

日本とベトナムの架け橋に

公益財団法人 いわき市国際交流協会
多文化共生相談員 星チャン (HOSHI TRANG)

皆様こんにちは、多文化共生相談員の星チャンです。ベトナム語で「TRANG」と書いて「チャン」と読みます。私は、2004年8月、結婚を機にベトナムから日本に来ました。以来、福島県いわき市に住んでいます。ベトナムでは首都ハノイから70キロほど南の地方都市ナムディンに住んでいました。来日するまで転居したことがなく、来日が人生最初の、そして最大の環境の変化でした。

期待に胸を躍らせて成田空港に降り立ちましたが、言葉の壁が意外に大きいことに数日で気づかされました。来日する半年ほど前から少しずつ日本語学習に取り組んではいましたが、大学で英語を専攻していたこともあり、世界中どこに行っても英語ができれば日常生活に大きな不便はないと油断していたこと

もありました。私が直面した日本語は、生活の様々な場面に登場する生きた日本語であり、語学学習の教科書的な日本語とは少し異なるものでした。今、「少し」と言いましたが、この「少し」が決定的に重要になってくることも少なくありませんでした。「少し」のために必要な情報量が限られるどころか、結果として正反対の意味になることすらあり、更には自分の気持ちを十分に言い表せないことで、誤解を招いてしまうことも少なくないということです。

このままではいけない、より深く日本語を学ばなければならないと考えていた時、市役所で職員の方から国際交流協会の日本語講座の受講を勧められました。協会の日本語講座は初心者にも大変わかりやすい内容でした。最初に参加した基本のコースでは、講師の先生が基礎の基礎から始まって、日常の会話に不便がないレベルまで指導して下さいました。教室には様々な国の方が在籍していて、多様な文化に触れることができました。そして日本語能力試験にも挑戦し、やがては念願だった1級（現N1※）に合格するまでになりました。

もちろん常に順調であったわけではなく、何度も壁に突き当たりました。そんな時には国際交流協会のボランティアの先生や市役所の方のアドバイスで助けていただき、困難を乗り越えることができました。お世話になった皆様に感謝しても感謝しきれるものではありません。自分ひとりの力や家族の協力だけではここまでこれなかったと思います。

長く日本に住んでいる外国人に比べれば、まだまだ未熟ではありますが、今後とも努力を重ね、苦勞して学んだ日本語を生かし、少しでも日本とベトナムの懸け橋になれるよう、がんばりたいと思います。

（※）日本語能力試験

日本国内及び海外の日本語を母語としない人を対象に日本語能力を認定する検定試験。N1 から N5 までのレベルがあり、一番難しいレベルが N1 となる。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「だれにとっても暮らしやすい いわき市」を目指す

公益財団法人 いわき市国際交流協会
主査 須向 敏子

いわき市に現在住んでいる外国人の割合は約 0.8%で、その 3 割程度をベト

ナム人が占めています。いわき市はこの流れを受けて、ベトナム人に対する相談体制を整えることにしました。

相談者に寄り添うことができ、ベトナム語を理解できる人を探すことになったとき、チャンさん以外の顔は浮かびませんでした。相談員の話を持ち掛けたとき、チャンさんは「私に何ができますか」と聞き返しましたが、私は彼女がいわき市で過ごした 15 年間の経験とその間に深めた日本語や日本社会への理解の深さは相談員として充分であることを知っていました。

いわき市にいるベトナム人の多くは技能実習生で居住地域はいわき市の中心部から山間部まで広がっています。彼女から外国で暮らす人が一番寂しく感じるのは家族で過ごす行事を一人で迎えるときだと聞き、「ベトナムの旧正月を楽しむ」事業を企画しました。ベトナムの旧正月にちなんだ飾り付けや簡単な食事を準備し、交流が深まるように日本のゲーム（ふくわらい）などを用意しました。予想を上回り、100 人以上の参加がありました。参加した人からは「こんな機会は初めてで、とてもうれしかった」「これからもこのような機会が欲しい」などの感想をいただきました。

今回のような事業の発想は地域で暮らす外国出身者だからこそ生まれたものであり、このことから私は、外国人との共生を考えると、外国人の気持ちや本音がわかる人との協働が大切であることを改めて感じました。これからもチャンさんを初め外国にルーツをもつ方々と連携をとりつつ、「誰にとっても暮らしやすいいわき市」をめざすために努力していきたいと思います。

◇ IIA(公益財団法人いわき市国際交流協会)の活動は以下のホームページや Facebook からご覧いただけます。

<https://iiaiwaki.sakura.ne.jp/wp/>

<https://ja-jp.facebook.com/IwakiIA>
